

科目区分：学校教育教員養成課程

授業科目名：初等音楽

対象年次：2年次

「初等音楽」

音楽教育講座・福富 彩子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、小学校学習指導要領（音楽）の「A表現（歌唱）」を中心とした歌唱の授業に対応できるピアノ伴奏及び弾き歌いの表現・技能の習得を目的としており、初等歌唱共通教材を主に取り上げて演習形式で授業を行った。

到達目標は、以下の3点である。

- 1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- 2) 小学校教科書掲載程度の楽曲が弾き歌いできる。
- 3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

2. 授業の概要について

「初等音楽」は、学校教育教員養成課程2回生を対象として開講されており、小学校・幼稚園教諭教職員免許状習得に必要な選択必修科目である。

クラス分けの形態で開講され、2019年度後期の福富クラスの受講者数は8名、試験受験者は7名であった。試験受験者のうち、音楽経験者は6名、未経験者は2名であった。

本授業は、弾き歌い、及びピアノの簡易伴奏や和音付けの知識・技能の習得に加え、表現の拡充を図るため、授業外学習が非常に重要となる。最終試験までの課題は、弾き歌い（ピアノ伴奏を含む）7曲を最低習得曲数として設定しており、最終回は、4曲（弾き歌い2曲以上とピアノ伴奏2曲以上）の実技試験と振り返りを行った。

全受講者の初等歌唱教材習得楽曲数は、7曲～9曲であった。

3. 授業実践の工夫

1) 個と集団を相互に関連付ける取り組み

本授業は、実技・演習が中心となるため、全受講者が同じ教室で個別の演奏を同時に行うことができない

といった課題がある。また、90分間という限られた授業時間において、熟達度の異なる受講者それぞれが自己課題を改善できる取り組みを促す工夫と、他の受講者との活動を通して技能向上を図ることのできる授業の工夫が必要である。

そこで、授業冒頭には全体で、基本的な和音（I度、IV度、V度）と、それらの和音進行について講義と演習を行った。シャープ1つとフラット1つまでの調の和音付けを繰り返し実施して定着を図るとともに、どの楽曲でも簡易な和音付けができる能力の育成を目的とした。

全体での活動後に個別実技指導の時間を確保し、授業最後に全員での歌唱（合唱）とピアノ伴奏を行う等、個々の課題を全体でもフィードバックできるよう心がけた。

授業1コマの流れ		
全体(10～15分)	個別(60～70分)	全体(10～15分)
簡単な音楽理論	各受講者への個別指導/課題の練習	伴奏+合唱
和音付	次回までの課題の提示	振り返り

2) 熟達度の異なる学生への実技指導

和音付けの演習では、初心者には各調の和音進行の確認と練習、上級者には簡単な旋律に和音付けを行う課題を実施した。

初等歌唱共通教材は、簡易伴奏と本伴奏の両方の楽譜を受講者全員に配布した。熟達度に応じた課題選択や、楽譜には記されていない簡単な和音付けなど柔軟な対応により、熟達度の異なる受講生への動機付けと技能向上をねらいとした授業展開を行った。

本授業での課題の実施（実技演習）には、音楽の基礎的な知識・技能とともに予習・復習が欠かせない。毎時間、各受講者の自己課題を明らかにし、受講者が実現可能な目標設定を意識することで、段階的な学

習方法で動機付けを高めることができると同時に、授業外学習の促進にも繋がるものと考えている。

4. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業では、初等の歌唱教材のほかに、現在、四国のテーマソングとして拡がりを見せている「ふるさとの色（作詞・作曲：アンジェラ・アキ）」を取り上げて合唱する活動を行った。

受講者は、四国が題材となっている本楽曲に大変興味を持ち、生き生きと歌唱する姿や、自主的に伴奏や弾き歌いを練習する受講者も見られた。

この活動により、四国や愛媛に対する愛着や想いの深まりに繋がり、音楽を通して他者と心の交流を図ることにもつながるものと考えられる。また、今後、受講生が教育現場で本楽曲を歌い継いでいくことで、地域社会と音楽の関わりを深められるきっかけにもなるものと期待している。

5. DP アンケートの結果について

本授業終了時、試験受験者7名を対象に実施したDPアンケートの調査結果を以下に記す。

DP	質問内容
DP1	知識・理解: 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。
DP2	技能: 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。
DP3	思考・判断・表現: 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。
DP4	興味・関心・意欲、態度: 教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

	DP1. 知識・理解	DP2. 技能	DP3. 思考・判断・表現	DP4. 興味・関心・意欲、態度
とても思う	7名(100%)	7名(100%)	6名(83%)	7名(100%)
ある程度思う	0名(0%)	0名(0%)	1名(17%)	0名(0%)
あまり思うわない	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)
DPとは無関係	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)

受講者	この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間(一週間の平均)	この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間(一週間の平均)	合計時間(週の平均)
A	3	1	4
B	4	2	6
C	3	0	3
D	6	2	8
E	3	0	3
F	20	20	40
G	3	2	5

受講者	この授業を通して、教員になる上でどのようなスキルが身についたと思いますか。
A	児童と音楽を楽しむ力
B	演奏技術が身につくだけでなく、弾き歌いなどの技術も身につけることができる。
C	知識、技術や自信、音楽の楽しさ
D	ピアノを弾き歌うできる、子どもと一緒に音楽を楽しむ能力。
E	ピアノを弾く、歌うスキル
F	児童と一緒に音楽に取り組むことのできる能力の育成や、ピアノを弾く技能、また音楽に関する知識を深めることが出来たと思う。
G	ピアノを弾く経験は男女関係なく小学校の教員なら必要だと思った。やればできることを身につけることができた。

受講者	この授業に対する自由なご意見、ご感想、改善点などがあれば記入してください。
A	ピアノ初めてだったけど、ペダルまで踏めるようになって、メンバー同士でお互いに教え合い、励まし合ってすごく楽しい授業でした。
B	大学に入ってから一番楽しい授業でした。
C	とても楽しく音楽の知識を身につけられました。先生とグループのみんなにととても恵まれた教室だったと思います。
D	とても楽しい授業でした。たくさんの曲と出会って嬉しかったです。少人数だったのでとてもしっかり教えていただけて先生のクラスに入れてよかったです。
E	ピアノは弾いたことなかったのですが練習してここまで弾けるようになってびっくりしました。ピアノの曲も他に弾きたいです。
F	毎授業楽しく取り組むことができ、先生からの指摘もわかりやすかったと思います。また、ピアノを弾くことは将来必要なことでありピアノに対する意識の向上が出来た授業だったと感じました。今後も個人的に取り組んでいきたいという意欲の湧く授業だったと思います。
G	音楽がさらに好きになった。みんなで歌う楽しさや1人で練習して上達する喜びを感じる事ができ音楽の楽しみかたを学べた。本当に履修して良かった。

6. アンケート結果のまとめと課題

DP1～DP4 (表1) までのアンケート結果は、DP3の「ある程度そう思う(1名)」の回答を除いて、全ての質問で「とてもそう思う」とポジティブな回答が得られた(表2)。

授業外学習に関する2つの質問(表3)では、本授業に関する予習・復習に、各受講者が3時間～40時間(週)程度取り組んでいるとの回答があった。授業外学習(週)に計40時間もの時間をあてていた受講者1名を除く6名の平均は4.8時間(週)であり、過去のデータからみても高い数値である。また、全ての受講者が3時間以上の練習を毎週平均的に積み重ねていったことで実技能力向上に繋がり、受講者の意欲の表れでもあると推察できる。

自由記述式のアンケート(表4と表5)では、ピアノ演奏や弾き歌いといった技能・表現面の向上だけではなく、児童・生徒への授業に活かせるスキルの習得に関連付けて回答している。本授業時には、歌唱共通教材のほかに、合唱用教材の自主練習や、難易度の高い伴奏パターンを複数試みる学生など、主体性を持って授業に参加している受講者が多数みられた。

今後の課題として、受講人数が9名以上となった場合、個別指導時間確保が難しい場合の授業方法の工夫や検討が必要であると感じた。